

毎週の回診カンファレンスをベースに

効率的な回復期リハビリテーションを展開

副院長 夏目重厚

回復期リハビリテーション病棟では、回診カンファレンスやリハビリ計画書作成を頻回に実施し、可能な限り患者さんの経過を報告しご家族のご希望に合わせるよう努めています。急性期から一貫したリハビリテーションを提供するとともに、社会制度の活用サポートに至るまで積極的に関わり、退院後の不安軽減にも尽力しています。

一貫したリハビリ  
テーション実現のために  
急性期・回復期の  
管理体制の二元化の徹底

当院では、リハビリ医以下、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の各責任者が急性期・回復期の両方を担当する体制にしており、リハビリを行う場所も共有しています。両病棟の責任者を一本化することで、病棟間のセクシヨナリズムを防ぎ、情報共有をスムーズにすることで、入院するすべての患者さんの経過を全員が責任をもって把握できるようにしています。このような体制をとっている病院は珍しく、当院の大きな特色と言えると思います。この二元化システムを支えるのが、全患者への週1回の回診カンファレンスです。リハビリ医を中心に療法士や看護師、医療ソーシャルワーカー(MSW)がベッドサイドを回り、1週間のシヨトサマリを作成して全入院患者の状態やリハビリ内容の評価を徹底しています。2013年の回復期リハビリテーション病棟立ち上げと同時にこのシステムを運用していますが、急性期から途切れることなく回診カンファレンスを行っているため、情報の切れ目が限りなく少なくなりました。



### リハビリテーションに 最新機器を積極的に活用し、 在院日数を短縮

また回診カンファレンスのみだけでなく、患者さんのためのカンファレンス自体が多いことも、当院の特色です。療法士は毎日とっていいほど何らかのカンファレンスを行っており、個々の患者さんに最善のリハビリテーションを提供するべく検討を重ねています。

全入院患者がリハビリテーションの対象である、

これが当院における基本的な考え方です。急性期であっても入院時からすぐにリハビリ担当がつきます。

リハビリテーションが必要になってから開始するという考えが、そもそも存在しないので、リハビリが後手の対応になるということがありません。また、すべての療法士が促進反復療法(川平法)を習得実践しており、電気刺激療法や早期装具療法までを並行して取り入れていることで、在院日数の短縮化にも大きく貢献しているものと思えます。

インタビュー全文をWEBページにて公開しています。

<https://www.yoshida-hp.or.jp/column/interview/index03.html>

#### TOPICS

- ・リハビリテーション総合実施計画書は多職種が合同で毎月作成し患者さん・ご家族と共有
- ・療法士は研鑽を積んで医学的知識を深め、積極的なリハビリテーションを遂行
- ・気軽に相談できるよう、医療ソーシャルワーカーがオープンな環境に常駐
- ・手厚いフォローで退院後の社会的不安を取り除く



吉田病院メールマガジン <https://www.yoshida-hp.or.jp/tiiki/newsletter.html>

日々の診療にお役立て頂ける脳疾患に関する専門的な情報や当院の取り組みにをメルマガにて配信しています。

※配信停止などはいつでも行って頂けます。

メルマガ登録はこちら



社会医療法人榮昌会  
吉田病院 附属脳血管研究所

〒652-0803 兵庫県神戸市兵庫区大開通9丁目2-6

TEL:078-576-2773 FAX:078-577-2792

<http://www.yoshida-hp.or.jp/>

患者さんのご紹介や当院へのご意見などは地域医療連携室にお気軽にご連絡ください。

**TEL:078-576-1520** (平日 9:00~16:30 土曜 9:00~12:00 ※祝祭日は除く)